

乳幼児期の遊びや生活と脳科学 ー神経科学と進化学の視座からー

日本工学アカデミー 顧問(前上級副会長)

東京大学先端科学技術研究センター フェロー/ボードメンバー

日立製作所 名誉フェロー

小泉 英明 氏



【参加者の皆様の感想から】

脳科学の観点からのお話は、幼児教育・保育の大切にしたいことへの根拠を教えていただいたように思いました。情動、自然、本物との出会いを大切に、子どもが興味をもって手を伸ばし遊ぶ(学習する)姿を大切に見守っていきたいと思いました。

子どもは科学者のように、不思議に思ったことを自分で経験して学んでいくのだと改めて感じました。私も、子どもの遊ぶ様子を同じように興味をもって見守り寄り添っていきます。

(こども園)

学んだことを次の研修日に必ず話します。幼い子を育てている元同僚にも語りたいです。

自分が子育てをしていた時、本当に忙しくて、タオルや毛布をくるくる丸めて哺乳瓶を固定して飲ませていた…分かってはいたけど、時間がなくて、仕方なく。ごめんねって思いながら仕方なく。

そして、現代はスマホ。養育者の心の在り方も大事なと思いつつ、先生のご著者を読ませていただきます。(幼児教育アドバイザー)

脳の根幹にある情動を感じる部分が、乳幼児期に感性を育む上でとても重要なことが、分かりました。また、脳の発達連続性を知ること、乳幼児期にどのような教育が適切かということの根拠も含めて知ることができてとても良かったです。子どもたちが自然に触れて心を動かしたり、リズムなどの表現を通して他者とつながったりする意義を改めて考えさせられる良い機会となりました。(幼稚園教員)

本日は外部の者にも貴重な機会をいただき、ありがとうございました。小泉先生のお話を伺うまたとない時間になりました。

経験値を理論と結んで捉え、語る。さらに本日のように、普段触れない分野から改めて捉え直すという機会の重要性を改めて感じました。ワクワクしました。自然、実体験の大切さをこれからも心に留め、仕事に向き合いたいと思います。

(大学教員)

現在出産し、1ヶ月の子どもを育てています。ミルクや母乳をあげているときに我が子のこと見ていましたが、本日はお話に出てきた「まなかい」は意識していなかったもので、今日から意識していきたいと思います。また、自然に触れる重要性も分かりました。本当の自然に触れていく機会をどのように設けていくか、夫にも共有して一緒に考えていきたいと思います。

また小学校教員として、学習と教育の違いを脳科学的に説明していただき、今後の指導に生かしていきたいと思いました。低学年の児童は生活科の学習で自然と関わる機会も多くありますので、寄り添い見守っていけるようにしたいです。

(小学校教員)



「当日、参加できなかったのですが、ぜひオンデマンド配信を！」「同僚にも視聴してほしい」などのお声をたくさんいただきました。

近日中にアップいたしますので、園内研修や保護者の皆様への情報提供等にも、ぜひお役立てください。